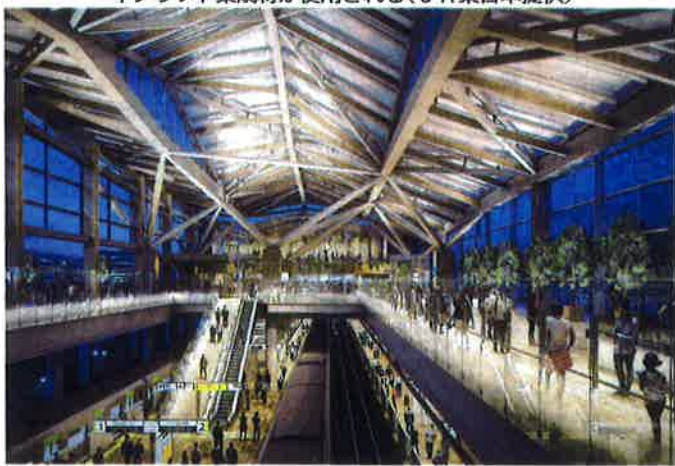


高輪ゲートウェイ駅の駅舎内のイメージ図。ホームから見える屋根部分に古殿町産スギで作ったハイブリッド集成材が使用される(JR東日本提供)

注目新駅に 古殿のスギ



東京・山手線「高輪ゲートウェイ」 藤寿産業(郡山)が集成材製造

郡山市の木材製造加工業・藤寿(とうじゅ)産業が古殿町産スギで製造した「ハイブリッド集成材」が、東京・JR山手線の新駅「高輪ゲートウェイ駅」の材料に採用された。新駅はJR東日本が品川・田町駅間に二〇二〇年春の開業を目指して建設中で、集成材は駅舎屋根部分の梁(はり)として百本以上が使用される予定。同社と古殿町は、同年夏の東京五輪で訪れる国内外の観光客に県産木材の魅力を発信し、利用拡大につなげる。

藤寿産業は、木材の製造・一六(平成二八)年には、加工技術で県内外から高い評価を受けている。昨年六月に南相馬市で開催された全国植樹祭では天皇、皇后両陛下が臨席し、お座りになった「お野立て所を製造・施した。同社は県産材を使用し、郡山市内の工場で集成材と鉄を組



古殿町産スギを活用し、藤寿産業が製造したハイブリッド集成材

県産材で五輪客出迎え

み合わせたハイブリッド集成材を加工している。新駅が整備される港区は、公共施設や民間建築物などに国産木材使用を促進する「二〇二〇年モデル二酸化炭素固定認証制度」を設けている。二〇二〇年建築家隈研吾氏(かみ)が担当

同社は二〇一七年十一月下旬から昨年三月上旬までに新駅の工事現場に集成材を納めた。新駅のデザインは、新国立競技場や渋谷駅などを手掛けた建築家隈研吾氏(かみ)が担当した。ハイブリッド集成材は、平方メートルの吹き抜けの屋根部分に使用され、ホームからは屋根が見える。新駅は、二〇二七年開業予定。東京五輪ではパブリックビューイングなどを実施する

ハイブリッド集成材 木材の強度を高めるため同じ繊維方向に平行に重ねて接着した「集成材」と、「鉄」を一体化した部材。藤寿産業と新日鉄住金エンジニアリング(本社・東京都品川区)が東京工業大のアドバイスを受けて共同開発した。高い耐火性や耐久性が特徴。2005(平成17)年に埼玉県深谷市の深谷生涯学習センターで初めて導入されて以降、各地で採用されている。地球温暖化対策に貢献する構造材として注目を集めている。

計画もある。県産木材を使った屋根は、国内外から訪れる利用者の注目を集めると期待されている。同社の隆山(たかし)社長(60)は「復興に向けて力強く歩む本県産材の姿を伝え、県産材の価値を高める機会になれば」と期待を込める。古殿町は新駅開業後にホームページや広報誌を通じ町産木材をPRすることを検討している。岡部光徳町長は「全国的に注目を集める駅で町産材が使用される。町産スギのPRを強化し、知名度を全国に広げたい」と語った。